

2025 年度ルール改正について

1. ネットを通過するボールについて

チームが 2 回目 3 回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を通過して相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。

ボールがネット垂直面を超えた時点でアウトとなる

(注) 1st レフェリー、2st レフェリーは 2 回目または 3 回目にヒットしたボールが、それぞれのレフェリースイド許容空間外側のネット垂直面を通過した瞬間に吹笛する。

2. ネット近くの反則

相手チームのアタックヒットの前に選手が相手空間でボール若しくは相手選手に触れたとき

(注) 相手空間内で、相手のアタックヒット前にブロッカーがボールに触れた場合が反則となり、アタックヒットと同時にブロックの手がボールに触れても反則ではない。

3. スクリーン（別紙 1）

サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。

意図的なスクリーンが疑われる場合、1st レフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。

(注) ①チームが意図してスクリーンを形成している場合や、プレーヤーが手を頭より上に上げている場合（頭を保護するために、頭の後ろに手を上げることは許される）スクリーンの反則になることがある。

②上記のようなケースをサービス許可前に気づいた場合は注意する。

また、サービス後に生じた場合はラリー終了後に注意をする。

4. サービスの許可

1st レフェリーは両チームがプレーする準備ができて、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。

(注) コート上に 5 人だけ、または 7 人の選手がいるときは 6 人になるよう、サービスの吹笛前に促す。

もし、気づかずに吹笛した場合、およびラリーが始まったり完了した場合、直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。

スクリーンの小学生バレーボールにおける取扱いについて

12.5 スクリーン

- 12.5.1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成してサービスヒットおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害してはならない。
- 12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、サービスヒットとボールのコースの両方をボールがネット垂直面に到達するまで隠すことでスクリーンとなる。サービスヒットまたはボールのコースがレシービングチームに見えるのであればスクリーンではない。
- 12.5.3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。

小学生の試合でのスクリーンの反則は、6人制競技規則に準拠し、次のとおり取り扱ってください。

- 1 1stはサービス時に、スクリーンの反則となり得る位置に競技者がいないか確認してください。
- 2 スクリーンの反則となる可能性がある場合には、注意を行ってください。その際は該当する競技者の番号や位置を明確に伝え、スクリーンにならないよう離れるように教えてください。
- 3 サービスヒット後、サービングチームの選手が、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげた場合は、ラリー終了後注意をしてください。

20091206

都道府県小学生バレーボール連盟

理 事 長 各 位

日本小学生バレーボール連盟

会 長 山 崎 宣 夫

理 事 長 工 藤 憲

試合中の携帯電話やトランシーバー等の通信機器の使用について

上記標題につきまして、御連絡いたします。

携帯電話やトランシーバー等の通信機器を、試合中に使用するチームが見られます。指導者が携帯電話やトランシーバー等の通信機器を試合中に使用することは、小学生バレーボールの指導者として良いマナーとは考えておりません。

日本小学生バレーボール連盟としては、試合中に携帯電話やトランシーバー等の通信機器の使用について、下記のように取り扱うこととしますので、関係各位への周知をお願いいたします。

記

1 取り扱い

試合中の携帯電話やトランシーバー等の通信機器の使用は、止むを得ず選手の安全や健康管理上の観点から使用する場合を除き、ベンチにおいて使用を禁止します。使用した場合は、6人制競技規則第21条に従い、罰則の対象とします。

以 上